

シリーズ 人権 (47)

あるアスリートの言葉

皆さんは障がい者スポーツを実際に観戦したことがありますか。ほとんどの人はおそらく「いいえ」と答えるのではないのでしょうか。

障がい者スポーツはもともと、障がい者の機能回復訓練やリハビリからスタートしたことから、「スポーツ」として広く認知されておらず、日頃の活躍がマスメディアに取り上げられることはほとんどありません。また、トップレベルの選手たちでも、いまだにナショナルトレーニングセンターを自由に利用できず、強化合宿などの費用も選手の自己負担での参加がほとんどという厳しい現状があるようです。

私も障がい者スポーツの観戦に行ったことはありません。テレビのニュースや特集番組、インターネットの動画配信サイトなどで見たことがある程度です。障がいがあるとは思えない素晴らしいプレーや激しい局面を見ると、「障がいがあるのにすごいなあ、頑張っているなあ」というのが率直な思いでした。

車いすや義肢を装着してのプレーという見た目で、自分と障がい者の間に線引きを

したり、また、「障がい者スポーツを見て感動したのは、障がいのある人が必死にスポーツに取り組んでいるから」といった偏見も少なからずあったと思います。

しかし、ある選手の言葉を聞いて障がい者スポーツに対する見方が変わりました。その言葉は、「私たちはリハビリでなく、スポーツをしている。1人のアスリートとして見てほしい」というものです。競技に対して一生懸命に取り組んでいる姿勢は障がいのある人もない人も同じはずです。それなのに、私は無意識のうちに障がい者スポーツを「スポーツ」と切り離して特別視していたのです。このような考え方を変えれば、もっと障がい者スポーツの魅力に気付けたのではないかと思うのです。

今年はオリンピックとともにパラリンピックが開催されます。それぞれの競技に「スポーツ」としての魅力がたくさんあるはずですよ。私は、競技のルールを勉強して、その魅力を発見しながら楽しみたいと思います。皆さんも、4年に1度のアスリートの祭典「パラリンピック」を観戦してみたいはいかがでしょうか。

総合文化誌「津市民文化」第6号を販売

特集「災害支援“絆”」、「癒しのスポット」をはじめ、市内の風景、河芸地域の伝説、市民の皆さんから寄せられた短編小説や詩、短歌などを掲載しています。

販売価格 1冊500円

販売開始日 4月20日(金)

販売場所 文化振興課、教委生涯学習課、各総合支所地域振興課、津リージョンプラザ、アストプラザオフィス、久居駅前出張所、芸濃総合文化セ

ンター、サンヒルズ安濃、白山総合文化センター
次の書店でも販売

青山書店(羽所町)、三和書店(一身田町)、新町書店(新町二丁目)、BOOKS金青堂(イオン久居店)、別所書店(修成店、津駅店、イオン津店)



問い合わせ 文化振興課 ☎229-3250 FAX 229-3247